

1. 建設資材価格の高騰に伴う対応措置の要望

電気設備工事業界にとって極めて深刻な電設資材の値上げについては前号(第10号)で取り上げたところであるが、これに伴う公共事業の対応措置については県建設関係団体連合会として去る3月20日に県土木部、農地林務部、住宅供給公社、道路公社等へ要望した。要望書は建設関係6団体連名で行ったが、実質的には施工業者の団体の県建設業協会(本席者、本田副会長、渡辺事務、津田事務、三浦事務)県管工事連合会(本席者、吉川会長)及び県電設業協会の3団体で陳情を行ない本協会より大槻副会長、事務局長が出席し実現を要望した。

なお要望書の内容は次のとおりである。

建設資材価格の高騰に伴う対応措置について(要望)

手帳は本県建設業界に対し、ご指導ご高配と賜わり厚く御礼申し上げます。さて、相次ぐ原油価格の値上げに基因して石油関連建設資材は高騰の一途を辿り、加えてこれから誘発される電気、ガス料金、さらには国鉄運賃などの公共料金的大幅な値上げと目前にして、これらによるコストアップはもはや建築業界ならびに建設関連産業界のみでは対応できない事態に立ち至っております。

ご高承のとおり、受注産業としての特性をもつ建設業界がみずくそのほぐれとを占める中小建設業者は、経営基盤が極めて脆弱であるところから、請負代金の中においてこれら資材価格等の値上げ分を吸収することは不可能であり、このまま推移すれば企業倒産につながる重大な危機に直面しております。

しかも今回の石油危機は一過性のものでなく継続性をもつところから、今後ますます深刻かつ憂慮すべき事態を招来することは必至といわざるを得ません。

つきましては、これら建設資材の高騰防止のため、適切かつ強力な対策の推進をお願い申し上げますと同時に、上記要因のほか最近におけるインフレ経済基調の中で、不測の事態に基因する建設資材の高騰に対応し、積算に当っては常時実勢に即応されることにも、特定資材については、既契約分であっても随時見直しされるなど、弾力的に措置されますよう、格段のご配慮をお願い申し上げます。

2. いわき支部で現場ハトロール実施

いわき支部においては去る2月27日支部技術委員による現場ハトロールを実施した。当日は、坂本支部長及び本部技術委員でもある松崎理事、それに技術指導としていわき建設事務所建築課、加藤明常係長殿の参加を得、県管工事7ヶ所の現場で①現場事務所に掲示準備すべき②安全管理③施工経過④施工模範例のヒソフアツプ⑤施工管理に対するチェックを実施した。

参加者全員により熱心な質疑応答が交され、特に県管住宅建設については5棟が同時に着工し、竣工も目前に控えておられるため、施工各社における同時着工の問題

先づ大きなものとして行政整理を行ない、役人の数をへらす。しかし首切りは大変な問題になる。労組のストライキは長期にわたって実施されるであろうし、政治的にも大きな変化が出てくる。後に実施しても7千億円程度の削減。

次に大きな支出の削減は福祉と公共事業である。福祉はかなりの水準を引き下げる。公共事業は現在の3割程度にする。このため建設業界では千数百社が倒産するであろう。日本の企業が高度成長型体質で、終身雇用と互換性型の給与形態をもっていることが特徴であり大きな問題である。現在の日本の学生は退職後も心配しながら入社している。

しかも現在好景気の企業、或は公務員等好遇されている職場をねらって志願している。しかし昔から30年間優遇した企業は殆んどない。炭鉱、紡績がよかつた時代があつた。その頃の公務員は安月給でみじめだつた。このように今好況のところは必ず悪くなる。長期的見直しは「わかりやすく信じにくい」。高度成長時代の日本は毎自職員を大幅に採用した。安い労働力でやるから当然利益が上がる。農家の若者がすべて都会に出て会社つとめをする。農村は三々五々農業となる。(シシヤン、ハニヤン、カーヤン)

特に戦後一児が標準年令より30%も多い。これが昭和40年代には高校、大学と卒業して会社に入る。昭和40年がピークであつた。このように安い労働力で日本経済が急激に伸びたのである。(しかし48年度からは減つてきた。80年度は安い労働力不足が一つと続くのである。

西ドイツも高度成長の国であるが、日本のように労働力は増えなかつた。

昭和55年の新成人は159万人、10年前の昭和45年~46年は約240万人、昭和25年生れが一番多い。これらが現在31才、10年経つと41才。これからは40才~50才代の中高年令が多くなり、20~30才代が減つてくる。

外国では労働力は商品と考へている。年令、勤続年数に拘らず同一職業の者は給与は皆同じである。日本は年功序列式であるので同じ仕事をしていても給与が違ふので高い負担となる。よい例は国鉄である。

国鉄の最近の赤字、年間約7,000億円、1時間1億円の赤字が出てくる。この大きな原因は年令構成の問題がある。

ご承知のとおり昔の交通は汽車のみで国鉄は景気がよく毎年職員を大勢採用した。しかし30年代に入るとトラフ、船、飛行機による輸送が急激に増えてきた。

40年代に入るとマイカーの普及により益々国鉄離れが目立ってきた。

国鉄もこれらに対応して内外共に非常な勢いで縮小に努力した。

しかし、20年代に採用した職員が多く職員構成はキノコ型になっており、平均年令は42.5才。もしこれが仮に28才の平均年令であつたならば現在の赤字問題は出てこらなかつたであろう。

日本は今後国鉄型の企業が多くなる。現在日本でもつても利益のあけている企業のトヨタ自動車は職員の平均年令は31.5才。もしこれが国鉄と同じ42.5才であるならば赤字会社であろう。10年間に労働人口は4才あがる。こうなれば年功序列型の賃金体系は保たれないであろう。又停年延長とからんで撞口問題が出てくるであろう。年令と賃金、生活の態様、人生観の变化等、高齡化社会に対応して論議が今後さかになる。

80年代末の老後社会の対応が具体的に出てくる場合愕然とした社会になるであろう。

20年後の老人福祉はよくあるか？ よくはならない。

現在65才以上の老人は約1,000万人、総人口の9%で11人に1人が老人である。西暦2000年(昭和75年)には14.5%、7人に1人、2010年(昭和85年)には19.5%、5人に1人となる。

総人口中老人の比率が14%を超えれば老人福祉は成り立たない。

よく老後は子供に頼らず老夫婦で退職金、年金でつつましく生活する。そして夫が死ねば老人ホームに入り果して余生を送ると悟つたことをいう中年の女性が多いが、それはひとつも悟っていない。

現在55才以上の人は心配ない。この年令の人はおそろく死せるであろうから。

40才代の人には大規模な福祉施設なども足りなくなり、70才以上の老人しか老人ホームに入れないであろう。

子供から税金を取って老人福祉をやつても、核家族の日本では終局的に2.4人の子供から税とって老夫婦の福祉を老える。これでは税をおさめるより直接親を養つて方がよいであろう。結果はやはり子供の世話にならなければならぬ時代になる。今から子供にお頼みしている方が安心だ。

次に資源エネルギー問題である。

石油は現在30ドル平均となつてきた。1970年代は1ドル80セントで購入しておつたので約16倍となっている。

1ドル80セントは戦前より安かつた。1920年代は3ドル20セント(当時金は1オンス20ドル)当時石油の採掘はノバレル、16セントであつたから200%倍を売つていた。

アメリカは国内でノバレル採掘に5ドル、西ドイツではドルの費用をかけていたので日本は戦後安い価格で過剰な石油を輸入した。高度成長経済に大きく影響したのである。日本は石油に限らず資源小国が幸いし、あらゆる原料が需要供給の経済原則の中で取引されたのである。現在それが逆になつて困つている。石油は構造的に問題が出てきた。採掘しても有望なところが少なくなつた。発見が少ない。逆に消費量が多くなつた。

石油、産油は世界でも多くあるが量の問題がある。日本もせいぜい2%。米国、ソ連、中国も産出されるが、量、質、採掘経費の問題があり、結局石油は中東に固まつている。今後も残りはない。さて石油は有限か無限かというところになると、中東の石油は現在6,400億バレルと云われている。1年120億バレル消費して30年説もなつていて人もある。

しかし現在発見されておるところも2年間150億バレルよりいかに産油しておるので、その差60億バレル分が見ると107年分はある。反面消費量も増えてくるので22年説というものもある。果して本当はどうなるかとなると石油は無限である。値上げが消費量を少なくする。使用を控える節約するとなつた。そうすれば値段が下がる。これの繰り返しで進むであろう。

問題は人だん条件の悪いところを採掘することになるので、人件費より早く値上がりする。値段が一時的に下がることもあるが序々に上つてゆくであろう。これからの産業は石油の使われない値上げのよいもの、或いは節約のできる設備投資に意を用いるべきであろう。

又これからは知恵をつかう(形のない値うち)産業、多種、少量生産が伸びるであろう。中小企業が伸びる時代となる。いわゆる地方の時代となる。

この動きは80年代の中頃に新しい知恵の文化、中堅の文化を老える時代となつた。

— 終 —

長、注意すべき点指摘され、今後の反省点となり参考となつた。

加藤係長より各現場における施工方法の統一性などの要望と安全管理に関する設備業者としての責任の自覚などの講評があり、大いに反省すべき一面もあつた。

3. 電気工事業者がオゾン塔を一括受注立派に完成させる。

オゾン塔(看板)は通常、建築業者或いはオゾン専用の看板屋が施工するのが常識とされてきたが、いわき市が土工、鉄骨工事も含めて一括電気工事業者に発注された。

施工者はいわき支部の(株)松本電気工業所(松本仁、社長)で常盤湯本駅前、昨月11月着工、本年2月に完成したオゾン看板である。

勿論これまでは協会いわき支部の市に村する

にゆめ PR が効を奏したのであるが、おそろく県内では始めてのことである。いわき市役所の英断に深く敬意を表するものである。協会の最大の目標とする電気設備業界の地位向上のため、分権発注、県内業者優先指名と諸官公庁、設計業界に要請しておるところであるが、このように元請として受注を受けるようにすれば「益々その地位が高まることとなり、まことに喜ばしいことである。



4. 参議院議員選挙立候補者の推せん

保革伯仲という厳しい情勢の中で、1980年代の政局を占む第12回参議院議員通常選挙が7月に施行されますが、本協会は下記の立候補予定者を推せんします(この中で)知の上にご協力をお願いします。

- |     |       |     |                     |
|-----|-------|-----|---------------------|
| 全国区 | 井上 寿  | 自民新 | 前建設事務次官             |
| 地方区 | 鈴木省吾  | 自民現 | 前県議会議員、現参議院農林水産常任委員 |
| 地方区 | 佐藤栄佐久 | 自民新 | 前町青年会議所 副会頭         |

5. 電気工事協同組合連合会の解散

電気工事協同組合連合会は昭和33年4月25日、県内6地区の協同組合と会員として創立され、各種の事業を行つたが、昭和40年11月に全国的組織体である全日電工連の傘下に加わり、福島県電気工事業組合と新たに創立、以来両組合の共同による事業活動を行つたところである。

しかし事業運営に関連する諸関係機関の連繫は、工業組合が主体となつたところから連合会自体としての事業活動は殆んどなく、その目的は達成したので数年前より早期に解散せよとの声が多かつた。

そこで事務局において内々検討して3年ほど経つたが、この間、副理事長会議において本日5月31日限りをもって解散することを内定したのである。

今後理事会の議を経て5月末に両組合の総会において解散の運びとする予定である。

# 協会だより

第 12 号  
昭和55年5月1日  
社団法人福島県電設業協会

## 1. 昭和55年度福島県管轄事業の概要

福島県の昭和55年度における管轄工事の事業量は、工事費総額149億1,300万円(件数339件)が計上されております。(54年度当初比1.08)内訳は

知事部局	176件	3821百万円	25.6%
教育庁	130	9,199	61.7
警察本部	31	1,754	11.8
その他	2	139	0.9
計	339	14,913	100.0

となっております。

### 主要工事一覧表

件名	工事場所	構造	階数(地上/地下)	延面積(m <sup>2</sup> )	備考
福島県警保健衛生所建設	福島市	RC	2/0	4,224	
福島工業高校産振施設	・	RC	3/0	944	
専連東北技校舎改築第2期	岩代町	RC	3/0	2,077	
専連東北技校舎改築	・	S	1/0	1,296	
福島東高校校舎新築第1期	福島市	RC	4/0	2,071	
教育センター体育館新築	・	S/R	1/0	244	
警察職員公会館新築	川俣町	RC	3/0	250	
専連免許試験場庁舎新築	福島市	RC	4/1	2,427	建設中
須賀川保健所庁舎改築	須賀川市	RC	2/0	224	
小野高平田分校体育館	平田村	S/R	1/0	213	
郡山女子高校産振施設	郡山市	RC	2/0	940	
小野警察署庁舎新築	小野町	RC	3/0	1,266	
警察職員公会館新築	石川町	RC	3/0	250	
棚倉合同庁舎建設	棚倉町	RC	2/0	1,440	
矢吹病院改築(改造)	矢吹町	RC	・	1,008	
農業経営大学校舎建設	・	RC	3/0	1,640	
警察職員公会館新築	棚倉町	RC	3/0	250	
須賀代養護学校校舎増築	須賀代町	RC	2/0	1,522	
会津短期大学建設	会津若松市	RC	3/0	11,004	継続
川口高技校舎改築第1期	金山町	RC	4/0	1,984	
会津少年自然の家	会津坂下町	RC	3/0	4,622	継続
管理職員公会館建設	田島町	RC	3/0	224	
南会津高技体育館新築	南郷村	S/R	1/0	913	
職員公会館新築	富岡町	RC	3/0	260	
栽培漁業センター施設	大蔵町	RC,S	1/0	・	
相馬農高総合校舎改築	飯鑑村	RC	4/0	2,716	
相馬女子高体育館新築	相馬市	S/R	1/0	1,129	
富岡高技川内分校体育館新築	川内村	S/R	1/0	213	
京町体育館建設	京町市	S/R	3/0	5,922	継続
勿来土木事務所庁舎新築	いわき市	RC	1/0	420	
大剣阜頭上屋建設	・	S	2/0	2,700	

## 6. 昭和55年度研修旅行

本年度の協会研修旅行は4月10～12日の2泊3日で「春の京都めぐり」に決定。会員皆さんに参加の呼びかけをいたしておりました。50名と最近に多い多数の方の参加を見ました。  
都合で参加出来なかつた会員の方は次の機会に期待します。  
京都における行動は会員大方の希望により団体行動は計画せず自由行動をいしめたので、今から支部単位、或いは有志個人でそれぞれ計画をたて下さい。  
集合は4月10日午後1時 東京駅八重洲中央口待合室です。その時間に遅れないようお願いします。

## 7. 協会の動き

3月6日	東北東電機(株)創業10周年記念祝賀会 仙台市 会長出席
3月10日	建設資機値上げに伴う公共事業対応措置と建関連して要望、県、住宅供給公社、道路公社 大槻副会長、事務局長出席
3月13日	井上孝時局講演会 建設センター 大槻副会長、福島支部会員多数出席
3月15日	県設計監理協会定期総会 全連会館大ホール 事務局長出席

## 編集後記

- 早いもので昭和54年度も終わりました。混迷の79年が終り80年代の幕明けの年が、依然として経済環境はさびしい。公共工事は国、県の予算でも零に近い。進捗率も期待は低い。民間投資も不透明。おまけに建設資機は軒なみ値上げで悲観材料ばかりの感がある今日此頃である。
- 吉田会長が去る3月10日に気管支拡張症のため福島市の大塚総合病院に入院しました。幸い経過も極めて順調で、去る3月27日退院。いよいよ目下自宅療養中です。
- 現在事務局で昭和54年度決算のまとめ、昭和55年度予算を編成中であり、理事会も4月22日(火)総会も5月21日(水)に予定しておりますのであらかじめご了承下さい。

## 第29回通常総会 5月22日に開催決定

### 2. 第1回理事会開催する。

協会本年度第1回理事会が4月22日午前1時30分より電協会館において開催され、総会に提案する議案を中心に審議された。

- 昭和54年度事業報告並びに支入支出決算について。
- 昭和55年度事業計画並びに支入支出予算案について。  
事業計画案については予想されるさびしい情勢に対応して、11項目の目標もかけ予算については、この目標を遂行するため総額342百万円の予算を計上したことを説明し、審議の結果、この案も通常総会に提案することとなった。
- 定款の一部改正について  
専務理事制の新設、同職数事務局新設、委員会の新設案についての一部改正案も提案、審議の結果、この案も総会に提案することとなった。
- 第29回通常総会日程案について  
5月22日(木)午後1時30分より電協会館において開催することに決定した。
- その他
  - イ 県及び福島県配電盤工業会と電設業協会(ワーカー)が近く検討の上改正される受配分電盤工事特記事項改正版について2冊までは協会が負担、会員に無償配布。それ以上希望する場合は有償とする。
  - ロ 協会だよりの表紙(ファイル)を作成し、会員に配布する。
  - ハ 成田理事より昭和56年5月に開催する総会30回記念事業の概要について説明。
  - ニ 参議院議員選挙について  
会長より去る6月29日執行予定の参議院議員選挙については、さきに「協会だより」でお知らせのとおり、全国区井上孝氏、地方区鈴木省吾、佐藤栄佐久の両氏を協会として推せんが、各支部においては充分理解され、強力に推進することを要請した。

### 3. 第1回正副会長会議

本年度第1回正副会長会議は、4月22日理事会に先立ち午前11時より会長室において開催。理事会に提案する総会資料について審議された。

### 4. 池添祥彬氏知事表彰に輝やく

池添電設株式会社社長池添祥彬氏(郡山市、本協会理事、県電気工事工業組合理事長)には、永年わたる電気工事業界に尽くされた功績が認められ、5月3日の憲法記念日にあたり、建設工労働者として福島県知事より表彰されることになりました。まことにめでたうございます。  
表彰式は5月6日午前11時より県庁正庁において行われます。  
なお本協会委員の知事表彰は3年連続の表彰であり、県において本協会の活躍が大きく認められたものであり、大変嬉しい限りであります。

1. 第29回通常総会盛會裡に終る

本協会第29回通常総会は5月22日午後1時30分より電協会館において、82名(うち委任状出席6名)の会員各位の出席のもとに開催された。

又松井県土木部長、橋本営繕課長、県建設技術センター高木理事長も始め建設関連団体の長等多数の来賓が出席され総会が盛り上った。

吉田会長は冒頭の挨拶で「衆参両院議員の同時選挙という憲政史上かつてない異例の事態となった今日、今後の政局は益々容易でなく、又経済環境の極めてきびしいなかにあつて会員各位には一層団結を深め、協会も中心として社会的要請に応えるべきである。80年代の電設業界は建築に伴う電気設備工事のみでは進歩がない。

今後は上下水道、ダム、道路橋梁等の工事についても電気設備について分離発注を要望し、社会的地位の向上を図らなければならない。このためには今後も積極的に国、地方公共団体に対し要望を強化してゆきたい」と決意を述べた。

このあと松井土木部長より祝辞を述べ、新会員の紹介があり、議事に入る。大槻副会長が議長となり昭和54年度事業報告及び決算の承認、昭和55年度事業計画及び200万円にのぼる予算案を専断で可決し、100万は定款一部改正を審議、専断可決の上増員され理事の補充に福島支部吉田新市氏、相双支部阿部定雄氏が選任されたほか、専断理事に安部事務局長が理事会の議を経て昇格選任された。

総会終了後、パーティーに移り、東栄商工紺野氏の軽妙な司会により歌謡曲、民謡、声楽模倣など次々と披露され、松井部長、高木理事長までお付き合いされ、楽しい一日でした。

出席された会員各位のご協力に感謝申し上げます。来年度も引き続きご協力をお願いいたします。

2. 22年間の厂史を閉じる 県電設業協同組合連合会

5月27日午前11時より開催された昭和55年度県電設業協同組合連合会の通常総会において、5月31日をもって22年間の長い厂史を閉じ解散することが決定された。

連合会は昭和23年4月25日、6地区電設業協同組合を会員として創立され、会員の相互扶助の精神に基づき、会員のために必要の事業を行ない、その経済的地位の向上も図ってきたが、昭和40年11月全日電工連の傘下に加わり、電設業工業組合を新たに創立、両組合共同による事業活動となつたが、中央へのつながりから工業組合が主体となり連合会自体としての事業活動は殆んどなく、目的は達成されたので

数年前から解散せよとの声が多く、同日の総会において満場一致で解散が議決されたものである。

解散に伴ない清算事務に入るが、総会において清算人も次のように決定した。

代表清算人 電設業協同組合副理事長 遠藤 雄 蔵  
清算人 事務局長 安部 茂

なお、債権債務の公告期間等、法律的な制約もあり、清算が完了するは8月中旬頃になる予定である。

又同日午後1時30分より県電設業工業組合の通常総代会が開催され、総代人69名(うち委任状出席14名)が出席され盛會裡に終られた。

3. フルーフ保険に助成制度新設

5月22日開催の総会において、福利厚生事業の一つとして実施しているフルーフ保険の掛金に対し助成制度が決定した。

助成金は現在契約している従業員1人に対し1ヶ月200円(保険掛金10(100万円)590円)で、4月にさかのぼり適用されることになった。

このため助成金の事務処理として、6月の保険料納入の際、4.5月の2ヶ月分400円、7月納入の保険料に対し6.7月の2ヶ月分400円も助成し、8月分からは200円助成とする。(助成金分も6月より少く納入する。)

このように助成制度が突足し、安心の保険料で加入することに引き続き安心して働き、又経営者も安心して経営できることから、来年度(11月1日)には一層の加入も期待するものである。

4. おめでとう 池添さん

福島県は昭和55年度善行者および各界功労者の知事表彰式が5月6日午前11時より県庁正庁において行われ、松平知事から表彰状と記念品が贈られた。

建設功労者で当協会理事、県電設業工業組合理事長の池添祥彬氏が晴れの受賞者となった。

池添氏は昭和36年以来電設業協会の監事、理事、副会長等と19年の長きにわたり業界の健全な運営と発展、技術の向上に尽くされ、電設業工業界の社会的地位の向上に寄与された功績が認められたものである。

又昭和36年より福島県電設業協同組合連合会、昭和41年より福島県電設業工業組合の役員として活躍、現在理事長の要職にある。

5. 会員名簿等の配布

毎年発行している会員名簿は現在編集中でありますが、印刷の上6月中旬には会員のお手紙に配布いたします。又本年度の総会において一部改正された定款も同時にお送りする予定である。

5. 協会旅行盛會裡に終る

本年度協会主催の研修旅行は、去る4月10日より2泊3日の日程で実施された。「花のお都めぐり」をキャッチフレーズに会員に参加を呼びかけたところ、48名と最近にない多数の参加であった。

特に相双支部からは3名の奥さんが参加され、旅行に花を添えてくれたのも嬉しい限りであった。

今回の旅行は会員諸氏には京都は既に何回か見学されていることを考慮して、現地において自由行動とした。

各支部では事前に視察地を充分検討されたことと見えて、第2日目朝食後は、はりきつてそれぞれ洛中、洛東、洛北、洛西の目的地に向って出発した。

一年の中で今が一番季節のよい時期、桜は満開、しかも絶好の日取りにめぐまれてとにかく楽しい一日であった。

又古都千尋の厂史の中で育てられ、日本料理でも最高の水準といわれる懐石料理、湯豆腐、うどん、お茶漬、京風では食べ歩きも満喫されたことと思う。

3日目は京都御所春の一般公開の第一日目にあつたため、全員行動を共にして南北朝時代(1331~1332年)から明治まで皇居だった66万坪の広大な敷地に建築された御所を、玉砂利の参道と樹木の緑がすがすがしい中、しばしば平安の空気にひたひたから見学できたことは最高の幸であった。

全員一つがなく3日間の楽しい旅行を終えて、もろさき山のおみやげも背に上野駅で解散した。

参加の皆さんおつかれさまでした。

6. 第9回協会主催ゴルフ大会決まる

協会主催第9回ゴルフ大会は来る6月6日、相馬郡鹿角町の鹿島カントリークラブにおいて開催されることに決定した。

これは4月22日開催の理事会において、高橋幸一理事より提案され、了承を得たところである。

当日は午前9時集合、9時30分スタート、18ホール、ストロークプレーで行なう。

参加料3,000円、プレー費は各自負担(昼食を除き約6,500円)

なお案内等詳細については後日各支部を通じてお知らせすることになった。

豪華な賞品も準備するが是非ふるって参加をお願いします。

7. (株)郡山電機製作所創立30周年記念ゴルフ大会盛大に開催

昭和25年に創業された(株)郡山電機製作所(成田幸一社長)は本年4月をもって満30年を迎えるところであるが、常に堅実な経営をもつて伸展し、現在県内電設業界のトップクラスを誇りつづけていることは、誠実にして温厚、常に率先垂範して社業にあたり、信頼度の高い成田社長の人格と、全社員が一一致団結して社業に取り組んできた力が実と結んだもので、まことに慶賀に堪えないところである。

同社は30周年を記念して去る4月17日、郡山ゴルフカントリークラブにおいて記念ゴルフ大会が開催された。

桜花爛漫と咲きほころ晴天にめぐられた当日、150人が参加、午前8時、アウトインにわかれ成田社長の始球式後スタート、18ホール、ストロークプレーで開始された。

4時からクラブハウスにおいて表彰式とパーティーが行われ、成田社長挨拶、吉田会長のお祝いの言葉につづき、遠藤光昭競技委員長の表彰者披露により表彰式が進められた。上位入賞者は次のとおりであるが、行故か協会職員は上位に類をのぞかせているが、つらのは淋しい限りである。

アトラクション賞も含め豪華な賞品が次々と贈られ、楽しいしかも盛大なゴルフ大会であった。

同社の今後益々のご発展を期待するものである。

- 優勝 額賀 治 (郡山市 額賀建築設計事務所) 41.46.16.5 70.2
- 準優勝 赤島 信介 (郡山市 赤島建設株式会社) 48.48.25.2 70.8
- 3位 矢吹 肇一郎 (郡山市 日本測量株式会社)
- 4位 阿部 傳三 (郡山市 阿部測量事務所)
- 5位 坂川 敏多 (郡山市 郡山鉄工株式会社)

8. 協会の動き

4月7日	県木造家屋建築工事安全対策委員会幹事会 事務局長出席 建設センター
8日	県設計監理協会顧問 春山新三氏吉別式 事務局長出席 仁木や薔苑
10日	昭和55年度協会主催研修旅行 京都 48名参加
15日	県人事異動に伴う新任監事に対する挨拶廻り 会長、事務局長
15日	日新電設(株)今泉英雄氏病氣退散 会長、副会長、事務局長 郡山市
19日	(株)郡山電機製作所創立30周年記念ゴルフ大会 会長出席 郡山ゴルフCC
22日	昭和55年度第1回正副会長会議 正副会長 電協会館
22日	昭和55年度第1回理事会 理事17名出席 電協会館
24日	協会監事会 昭和54年度決算監査 尚予3名出席 電協会館
25日	原町建設事務所長に県工事発注指名案について陳情 会長、事務局長

— 会員消息 —

住所変更。福島支部 東和電設(株) (新)福島市旭町8-13 (旧)福島市浜町7-21

慶事。会津若松支部(株)光電設 新田一男氏 長男一憲君。いわき支部 三浦電設(株) 三浦博忠氏 長男光博君の結婚式が4月17日それぞれ盛會裡に挙行されました。両家ご喜びはひいひいのこと存じます。今後益々のご活躍を祈ります。

# 協会だより

第 14 号  
昭和55年7月1日  
社団法人 福島県電設業協会

## 1. 本年度第2回理事会開催さる

協会本年度第2回理事会が6月25日午前11時より電協会館において開催され当面する諸問題について審議された。

### (1) 支部規則の全面改正について

現在の支部規則は昭和22年協会発足時制定された規則で今日まで一度も改正も見なかつたが、現時点では適合しない条項も多々あり、特に現会長になつたからは支部強化策をとつて居る現状から各支部においては内規等も設け運営して居るところから、支部規則も全面的に見直し実状に合った規則にすべく提案された。大綱については各理事の意見を取り入れ、総務委員会でヒラメとめ、支部長会議の議を経て、次回の理事会に新規規則案を提案することとした。

### (2) 会費に関する規約の一部改正について

特別会費の負担で国の工事(建設省、文部省)は種々の事情で削除し、今後は県工事(県公社、公園等を含む)のみを負担対象とした。

### (3) 協会第30回総会記念事業について

成田理事より去る6月19日開催された実行委員会の事業計画(別掲)を説明したと得た。

### (4) 福島県文化振興基金寄付について

福島県文化振興基金に対する寄付については、去る5月22日開催の通常総会において予算措置については議決を得たところであるが、友好団体である県建設業協会は5月下旬に500万円を寄付しておるところから、本協会も寄付すべき時期にきておると判断し提案、寄付額は100万円、7月上旬正副会長が県庁において同基金理事長の松平知事へ手渡すことを承認された。

### (5) 支部助成について

通常総会において提案のあつた支部助成については、特別会費納入の見直しもつたので本年度の助成について各理事の意見も聞き、助成が決定した。

### (6) 県電気工事工業組合に対する援助について

さきの総会において提案のあつた援助について、前向きに検討すべく提案したところ、各理事より種々の意見が出たが、会長より各地区理事長の意見も聞き、これを参考にして次回の理事会で検討することとした。

### (7) 県建設業協会と県管工事協同組合連合会との特別委員会発足について

昨年8月管工事連合会との懇談会が開催され、両業界が友好団体として今後同一歩調をとり、相互に緊密な連絡をとり建設事業も推進し業界発展を期するにため、特別委員会を設置することも申し合わせられたところであるが、今般管工事連において

要綱が制定されたところから、本協会も要綱も制定しなければならぬので提案したところ、他団体との関係もあり制定を了承、支部長会議に提案することとした。又委員の委嘱についても全理事が了承された。

## 2. 第2回正副会長会議

本年度第2回正副会長会議は6月24日午後2時より開催、理事会に提案する事項について審議された。

## 3. 第30回総会記念事業の骨子固まる

本協会第30回総会記念行事実行委員会の第1回会議が6月19日福島市の杉妻会館において開催され、来年5月に開催される記念事業について審議し、大要次のとおり実行委員会に答申し、25日開催された理事会に報告された承と得た。

1. 名 稱 福島県電設業協会第30回総会記念式典
2. 開催時期 昭和56年5月20日より30日の間  
第30回通常総会 午前10時  
記念式典 午後1時30分
3. 総会及び式典会場 福島県杉妻会館 福島市杉妻町3-45 (県庁の南隣り)
4. 記念事業の内容

- 1) 県の社会福祉事業に対する寄付
- 2) 表彰
  - イ 創立時より加入の現会員に対する感謝状贈呈
  - ロ 永年勤続役員表彰 (10年以上)
  - ハ 永年勤続職員表彰 (10年以上)
- 3) 記念パーティ

### 5. 式典及びパーティの内容

単なるパーティに終わらず出席した来賓、会員がさす電設業協会にと後々まで印象に残る記念行事とするため、式典委員会でも充分検討する。

### 6. 実行委員会の応援態勢

実際的には福島支部会員の応援協力を頼む。

### 7. 記念事業関連行事

- 1) 記念ゴルフ大会  
記念式典の翌日福島支部管内で会員のみで行なう。計画実行については福島支部が担当。  
なお毎年実施して居るゴルフ大会は別途実施する。
- 2) 記念研修旅行  
30回総会記念を存念し、従来より旅行より若干豪華な研修旅行を計画実施する。

なお詳細については今後再三委員会及び小委員会も開催し固めるものとする。

## 6. 協会の動き

5月6日	昭和55年度善行賞及び各界功労者表彰式	池添理事表彰
7日	管工事分譲発注希望のため県土木部都市局長、管轄課長、顔光物産課長訪問	会長、局長
8日	いわき支部総会	会長出席
10日	福島支部総会	会長、事務局長出席
14日	相双支部総会	会長出席
15日	井上孝時講演会	管工事連合会 会長、大槻副会長、渡辺支部長ほか
15日	県建設業協会22回通常総会	印田副会長 会長出席
19日	電気設備工事分譲発注陳情	会津若松市 会長、藤田支部長ほか
21日	郡山支部総会	会長出席
22日	協会第29回通常総会	電協会館 出席者82名
24日	会津支部千葉吉工工門氏子息結婚式	会長出席
27日	連団連正副会長会議	井上孝時後援会役員会 建設センター 専務理事出席
27日	電気工事協同組合連合会、電気工事工業組合総会(総代会)	電協会館 会長出席
27日	県管工事協同組合連合会通常総会	管工事連合会 渡辺(南)理事出席
30日	県建設業協会団体連合会通常総会	辰巳屋ホテル 正副会長、事務局長出席
31日	白河支部総会	会長出席

### — 会員消息 —

#### (訃報)

逝去を悼み謹んでお悔み申し上げます。  
郡山支部 日進電設(株)代表取締役会長 今泉英雄殿 5月27日死去

### — 編集後記 —

- ささかと思つた内閣不信任案が自民党内部分裂により可決され、国会解散という異状事態になり、衆参両院議員の同時選挙というかつてない異例の選挙で今頃は選挙選挙で忙しかり、結果はどうなるか、それにしても迷惑しているのは国民ばかり。
- 例年のごとくであるが、4月5月は業界の役員会やら総会ばかりで、会員の皆さんも商売も忙しかつたお付き合いも苦勞さんでした。当事務局も三つの団体も一手に引き受け多忙と極めたが、27日の工業組合の総会終了でホッと一息。
- らぶと話は古くなつたが、2月の始め会員有志がクイックツアーに参加、永矢下猛吹雪の福島をあとに去る、現地パンパフも冬ではあるが攝氏30°、コラン島では海水浴で楽しむ真黒になって又零度の福島に戻つた、往つた車は60°の違い、お陰で参加者はコレラどころか風邪で参つた、まいった。
- 前宣伝が過ぎ過ぎたが、現地の旅行会社では吉田会長をVIP扱い、ホテルは福田前総理が泊つた最高の部屋、周りにはピストルをもつて警備員が廊下と往つたり来たり、夜を期待した会長去るにあられず、他の連中は会長より目に適当に……、会長(や)しがること、(や)しがること。

団体も中心に積極的な選挙協力が実を結び、上位当選されたことはまことに  
よきことである。  
特に本県における得票は62,739票と自民党では第1位、東北六県の得票でも  
第1位を占めている。今後同氏の国会における活躍を期待するとともに本県建設  
業発展のため、大いに力添えをお願いするものである。  
又衆議院議員総選挙については本協会が推せんした自民党候補9氏は全員  
当選され、再び国会において活躍出来ることには、まことに慶賀に至りである。  
参議院議員地方区において32万票を上廻る支持を得ながら当選に結び、す  
次衆となった佐藤栄佐久候補には、樓土重來をまじ、今後の活躍を期待するも  
のである。

## 8 協会の動き

6月1日	故今泉英雄氏(日新電設)告別式 郡山市平安閣 会長出席
6日	第9回協会主催ゴルフ大会 鹿島カントリークラブ 47名参加
7日	選挙協力のため会長いわさ守へ
8日	福島地区電気工事協同組合大運動会 信夫丘陵競技場 会長出席
9日	選挙協力のため会長専務会津若松市へ
19日	第30回総会記念行事実行委員会 福島市 委員10名、会長出席
24日	第2回正副会長会議
24日	報道機関と懇談会 正副会長出席
25日	第2回理事会 電協会館
26日	福島県安全会議定時総会 福島市 会長出席

## 9 会員消息

(代表者変更) 郡山支部 日新電設(株) [新] 新野新一 (旧) 今泉英雄 5月27日付  
郡山支部 日本電設(株) [新] 渡辺 剛 (旧) 依木重一 6月1日付

### 編集後記

#### ◆ゴルフ大会での話題3題

- アウトも遅くても食後の消化は、国津副会長ハーフ36は生れて初めて驚くやら嬉しいやら、回りの会  
員も一様に感心、好35ヒールも飲まず後半にかかれば燃料切れで後半50、それでもNET70で3位は立派、  
同じく大槻副会長、パートナーはこまごまワンパットで流れてきて得意顔、同行の高木理事長  
も証明しておられ、後半は暑さとお互々にはかなわなかったと見えて成績は中位。
- 高橋幸一氏 39.39のプレーはさすがシムルプレーヤー、地元会場故に優勝は遠慮し  
たのが、それでもベストスコア、ドラコン賞3個、セベコ賞1個とほまじが。
- ミスターダンテ賞成田幸一氏、当日のゴルフスタイルは皆一様に田舎くさく(筆者が言  
つてはならない) パツとしない中にも成田氏のスタイルが女性審査員の目に強くやき  
ついた、"あの方ほどなら、コイほどよいわ、強く印象に残ったのが賞につなが  
た。

## 4 第9回協会ゴルフ大会盛大に開催さる

協会主催第9回ゴルフ大会は6月6日鹿島カントリークラブにおいて開催された。  
当日は晴天にめぐまれ参加者47名は9時30分吉田会長、八巻相双支部長、  
来賓の高木建設技術センター理事長による始球式ののちアウト、インに分かれ、18  
ホールストロークプレー開始された。  
午後4時からクラブハウスにおいて表彰式を行い、八巻支部長、歓迎の挨拶、主催者  
吉田会長の挨拶につづき、高橋競技委員長の表彰者披露により参加者全員に豪  
華な賞品を贈ることも、各種のアラフション賞もあり、盛大にしかも楽しい大会で  
あった。  
本大会開催に当っては当日相双支部会員が全員出席され参加者のためお世話  
いただいたほか、高橋幸一氏には終始この大会に盡力下されたことに対し、厚く御礼  
を申し上げる次第である。  
上位入賞者は次のとおりである。

優勝	木下庄市 (わか設備設計)	39. 43. 15. 67
準優勝	渡辺光夫 (ワタテ電気工業)	45. 46. 24. 67
一位	八巻正隆 (旭電設工業)	41. 45. 18. 68
二位	依木政巳 (光建電気)	42. 42. 15. 69
三位	国津政夫 (高柳電設工業)	36. 50. 16. 70
四位	田村忠男 (田村電設工業)	39. 40. 8. 71
五位	高橋幸一 (高橋電気工業)	39. 39. 7. 71

## 5 金では買えぬ国家試験

建設業界は技術も売る産業だけに「資格」は不可欠、資格にも様々の種類か  
あるがやはり難関は国家試験、又種々の業種に国が定めて実施している資格  
試験がある。地味な努力と、積み重ねた技術力が要求される。業者にとって資  
格取得は避けて通れぬ問題である。こうした業者の心理を巧みに利用して悪質  
な「講習会屋」が横行している。甘い言葉や文書や電話作戦を展開、多額の受講  
料を要求してくる。要注意の講習は①受講料が高額、②受講料の請求を急いで  
くること、③講習会場所等が不明瞭であることなどがあげられる。  
電気設備に関する資格については現在のところ不明瞭な問題は起きていないが、  
こうした事態を重くみる建設省は、計画局建設業課長名をもって県土木部長を通じ  
本協会に通告があったのでお知らせする。  
「国家資格と誤認しやすい資格等について」と題し最近、国家資格と誤認しやす  
資格を授与するという勧誘、又は研修会受講者全員に国家資格を授与するよう  
な印象を与える勧誘等が、一部地域でなされている模様である。  
事例として  
建築大工施工管理士資格交付 全国資格認定協会  
塗装技能指導士資格認可 全国建設管理局東京本部  
1級、2級管工事施工管理技士・下水道技術検定特別研修会(全員合格) 全国建設管理協会

これらのものうち、資格については、国家資格と関係がないものであり、研修に  
ついては、研修を受けても国家資格を授与されるものではない。  
今後疑問が生じらるこれらの問題があった場合は協会宛お知らせ願  
い、早にも充分協議の上回答することとしたい。

## 6 「建設業の魅力ある職場づくり」標語・論文募集

雇用促進事業団では建設業における雇用の近代化を図る一環として、建設業に従事す  
る事業主、労働者及びその団体関係者から標語及び論文を募集する。テーマは「建設業の  
魅力ある職場づくり」同事業団は、わが国の建設業はGDPの20%を占めるといわ  
れる工事施工高を誇り、その施工技術も「世界に冠する」地位を占めるに至つて  
いるにもかかわらず、各種の労働問題が集約的に現われている。また、建設労働者の  
高齢化や技能工の不足などの問題から改善を図り、魅力ある職場づくりを目指し  
た啓蒙事業である。

- 応募資格
  - ①建設業に従事している事業主、労働者及びその団体の関係者。
  - ②建設業及び建設労働業務に関係ある官公庁、団体等に勤務する者。
- 応募方法
  - ①標語は必ず官製はがきを使用、1人何頁でも応募できるが、はがき1枚に1頁限り  
はがきには住所、氏名、耳念、勤務先及び勤務先の電話番号を明記すること。
  - ②論文は原稿用紙6枚程度(1枚400字詰)にまとめて応募。  
応募論文には住所、氏名、耳念、勤務先及び勤務先の電話番号を標題の横に  
明記すること。
- 提出先  
雇用促進事業団建設労働部普及指導課 〒102 東京都千代田区麹町2丁目1
- 締切日  
昭和55年7月31日(同日付けの消印のあるものを有効)
- 選考  
雇用促進事業団に設けられた選考委員会において選考するものとする。
- 入選発表  
入選者には決定次第本人宛通知するほか、昭和55年10月1日発行の建設  
労働広報誌「つち」10月号に発表。  
標語入選には賞状のほか副賞として優秀作5名に各3万円、佳作5名に  
各1万円が贈られる。  
論文入選には賞状のほか副賞として優秀作5名に各5万円、佳作5名に  
各3万円が贈られる。  
なお優秀作は11月に予定されている建設雇用改善推進の集い「カンケイ  
会館」で事業団理事長より贈呈される。

## 2 井上寿候補 968,439票 17位で当選

去る6月22日投票の衆参両院議員同時選挙において、本協会が強かに推せん  
した参議院議員全国区候補者井上寿氏は、会員各位をはじめ建設関係

2. 県文化振興基金に100万円寄贈

本協会は、福島県が県民の文化活動進展のため昭和54年度より発足された福島県文化振興基金の基金造成に協力すべく、去る6月25日開催の理事会において100万円を寄附することも承認されたが、7月17日県庁知事室において吉田会長、大槻副会長が出席し松平知事に目録を手渡した。

3. 県知事選に松平現知事を推せん

本協会は「豊かなふるさとづくり県民会議」の趣旨に賛同し組織に加入してあるが去る7月7日福島市において開催された臨時総会において、松平第二期県政実現を心から期待し、満場一致で現知事松平勇雄氏を推せんすることに決定したところである。

選挙は8月6日告示、8月31日投票であり、協会としても松平知事の推せんをいし総力をあげて公平当選の栄冠を勝ち取るよう会員各位においても積極的にご協力をお願いする。

4. 東北郵政局建設工事指名競争参加資格審査追加受付

東北郵政局長より昭和54.55年度建設工事等指名競争参加資格審査追加受付申請書提出要領について、次のように通知があつたのでお知らせする。

昭和54.55年度東北郵政局建設工事等指名競争参加資格審査追加受付申請書提出要領

- 1. 受付期間 (建築一式工事電気工事管工事) 自昭和55年8月18日 至昭和55年8月21日
- 2. 受付時間 13時から16時まで
- 3. 提出場所 仙台市一番町一丁目1番24号 東北郵政局建築印管職課(TEL 0222(66)1111)
- 4. 提出書類 (建設工事)
  - ア) 指名競争参加資格審査申請書(建設工事)
  - イ) 経営事項審査申請書(建設業法第27条の2第1項の規定による建設大臣又は都道府県知事に申請し控えとして返れ、ご本人受付印のあるもの写し)
  - ウ) 工事経費書
  - エ) 営業所一覧表
  - オ) 許可証明書
  - カ) 納税証明書(55年1月1日直前1年の法人税のもの)
- 5. 提出書類作成上の注意事項
  - ウ) 郵政本省に指名競争参加資格審査の申請された方で東北郵政局への申請を希望される方は当郵政局への書類提出を省略することからできずが受付票等にその旨を意志表示する欄がありますので忘れないこと
  - なお、昭和54年1月8日及び昭和55年2月に申請書を受理された方は今回提出する必要がありません。

県電設業協会の進むべき道

会長 吉田惣七

社団法人福島県電設業協会が昭和32年8月創立され、幾多の困難を克服し、本年で満23年も経過、総会も回を重ねること29回、来年は第30回総会を迎えることとなり、質素ではあるが、併せて記念式典も挙行すべく、目下記念行事実行委員会において企画を検討されておる。

昭和40年には念願の電協会館を建設し、50年に増築されるなど、不動の「城」を持ち、組織的にも確固たる地位を築き、数ある本県建設関係団体の中でも有力な法人に認められておることは、ひたすら先駆者の協会発展のため並々ならぬ努力と、そして会員各位の協力を心の糧として協力されてきたことが大変な要因とも言える。

さて、協会とは何をしているのか、又協会とは「なんのこともない、単なる親睦団体」と言う人もいる。成程親睦団体であることは間違いない。定款第3条に「本協会は、会員相互の信義を重んじることにより会員相互の親睦を回り、また相にばさえて電気工事業の経営の合理化-----」とある。

しかし親睦のみでは協会の存在価値は無きに似しい。協会の主たる目的は組織内企業の経営基盤の確立と業界内の相互融和が大きな目標である。

昭和48年秋の第1次石油ショック以来長期にわたる構造不況の深刻化とともに民間設備投資の低迷という現状において協会がこれに如何に打開して行くかが大きな課題である。

ご承知のとおり公共事業の中で道路、河川、砂防、海岸、ダム、上下水道のいわゆる土木工事は、上建業界は100%、国及び地方公共団体に依存し経営が成り立つている。これに対し電気工事業界は公共事業の管轄工事の一部を担っているのである。この意味から上建業界とは違い、年間受注工事額の約30%程度が公共工事であり残る70%は民間工事と企業の営業努力により経営を行っているのが現状である。

かつては公共管轄工事も一括発注で、設備業界は下請を余儀なくされておつたが、協会の関係方面に対するたゆまない陳情、要望の努力が実を結び、現在は回県及び一部の市町村においては分離発注が実現され、特に県におかれては県内業者の育成、助長という方針から、昭和54年度においては100%に近い工事が県内業者に指名受注されたもので、社会的地位向上のためにはまことに喜ばしい限りである。

これは組織内企業が企業体質の改善、技術の向上に努めた結果、今日では大手中央業者と比較し、なんら遜色のない技術水準、施工能力が認められた

- (2) 今回の指名競争参加資格申請に基づく参加資格の有効期間は、資格が認定された日から次の定期審査に基づく参加資格の認定の前日までです。なお、次の定期受付は、昭和56年1月下旬からの予定です。
  - (3) 提出書類のうち証明書類は、原寸大で鮮明であるものに限り複写機による写しを以てし、
  - (4) 4の提出書類はアからカまでの順序にそろえて上へし、
  - (5) 審査申請書は受付票と添付の上提出のこと。
  - (6) 審査申請書等は申請内容と十分説明できる方が持参のこと。郵送でも受理しますが書類に不備のないよう、又必ず書留扱いとすること。又この場合は切手もはった返信用封筒も同封のこと。
  - (7) 提出郵数 1部
- 参考、申請書の用紙は8月1日から東北郵政局1階郵政弘済会売店(TEL 0222(66)1111 内線444)で販売されます。

5. 第1回技術委員会開催

協会第1回技術委員会が7月16日京町市の県宮原町体育館建設現場において開催された。



国連技術委員長をはじめ本部技術委員、相双支社社員及び現場代理人主任技術者等約40名が参加し、又県庁宮崎課、島主幹、菊池係長、丹野電気技師殿、京町建設事務所より遠藤建築課長、蛭川技師殿が出席され、技術的諸問題について指導もいただいた。

今回開催したパトロールの目的は、電設業協会と員の電気設備工事施工に関する

技術向上を主とし、特に現場代理人或は主任技術者クラスによる現場における書類から施工面の研修を主体とした。技術の向上を図る方法として他社の施工工事を直接見直し、客観的立場で自社工事との比較検討を詳細に行ない、良い点と採用悪い点の指摘改善も考えることが最良の方法であり、通常では特別の事情でもない限り見直し出来ない他社の工事現場を見ることにより、大きな勉強となり、技術向上のために有意義なパトロールであった。



もので、今後も引き続き受注機会拡大を要請してゆく考えである。

未だ実現に至っていない市町村における分離発注並びに受注の確保、拡大の促進については、現在も行っているが、支部においても機会ある毎に関係機関に要請運動を進めるべきである。

更に80年代における電気工事は単に管轄工事のみならず、上下水道、終末処理場、道路、ダム工事等の公共事業にまで電気設備工事の分離発注方を要請、実現が当面の課題であり、現に推進に努力しておるところである。

技術向上のための研修については特に重点をおき、機会ある毎に研究会講習会の開催に力を入れる考えである。

次に世代交替問題、若年の会員が増えることはそれだけ協会に新しい活力が得られよることばかりいいところである。しかし協会には長い過去の歴史、流れというものがあつた。団体の持つ最も重要なものは「団結と協調」である。お互いに理解し合つてこそ協会の発展が得られるものである。

次に協会と工業組合の関係である。ともに電気設備工事業者の組織する団体であるが創立時期の違ひ、又目的、事業についても若干の相違がある。

工業組合は相互扶助の精神にもとづき共同事業を行ない、経済的地位の向上を図ることが目的で運営されており、協会会員は勿論工業組合の組合員でもある。しかしながら協会は電気工事業界の技ともいえる存在であるので会員はセパレートになり、組合運営にも理解をもち、行動面でも常に協力し、指導してゆく意識を持つべきで、受注された公共工事等もそれなりに小規模業者にもうけつてくる等の因果関係を認識させることにより対抗意識や反目することもなく、お互いに協力し合い表裏一体で仲よく進むことにより、共に発展の道が開けるものと言ふ。

最後に協会内部的には支部活動に対する支援、会員の福利厚生事業の推進、強化、情報の提供等を進めるほか、外部的には建設関係諸団体との連携、協調を更に深め円滑な協会運営を図つて行くものである。

非常にむづかしい情勢下ではあるが、協会と会員との連帯感を一層強め、協会の限りない発展に邁進する所存である。

1. 晴れの知事表彰に輝やく福島県南電設工業

施工技術が優秀な業者に贈られる昭和55年度優良建設工事表彰式は7月14日午前11時から県庁5階正庁で開催された。

本年度の表彰は土木建築と農地林業両部門合せて19社が審査対象となり、書類審査、現地調査、そして厳選の上最終審査で優良工事19社が決定されたものである。電気設備部門で福島県南電設工業株式会社(白河市 中島幸一社長)が表彰に輝き、松平知事より記念の盾と賞状が授けられた。

受賞の対象となった工事及び評価は次のとおりである。

県農業経営大学校本館建設電気設備工事  
【評】本工事は農業経営大学校本館建築に伴う電気設備工事と建築工事等関連工事の協調した際、際しては工程管理、安全管理に努め、自主管理も積極的に推進し、出来形も優秀である。